

美原区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称			実施主体				
家庭学習推進事業(美原区教育・健全育成会議関連事業)			美原区役所企画総務課				
事業目的	事業効果	活動指標	H28	H29	H30		
区域全体での自主学習ノートの取組を、区校園長会や区PTA協議会等との連携により進め、区内児童・生徒の家庭における学習習慣の定着を図り、自律的に学ぶ力の育成をめざす。	○児童・生徒の家庭での学習習慣の形成 ○保護者と児童・生徒、地域のつながりの強化 ○小・中学校連携での継続実施による「つながる教育」の推進	ノートの配付児童・生徒数	3,452人	3,373人	3,324人		
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
◎	美原区教育・健全育成会議平成27・28・29年度提言に基づく事業である。	△	児童・生徒の家庭での学習習慣の形成には、保護者の協力が欠かせず、その機運づくりには、地域の協力が効果的である。	○	児童・生徒の自主学習ノートの取組意欲の向上を図るための「頑張ったねシール」を作成した。また、自主学習ノートを頑張って使用している児童・生徒を褒める機会となるよう、ノートを1冊終了する度に貼付する古墳型の「表彰状シール」を作成した。	◎	区域の学校全体で取り組みことで、ノート・シールを一括購入することが可能となり、費用を抑えることができた。
⑤自立発展性			総合評価				
△	区としての課題をふまえ、区内の児童・生徒が家庭学習にこれまで以上に取り組めるよう、区の支援策としてノート等の購入・配布を行ったものである。家庭での学習習慣が定着すれば、学校と家庭が連携した自立的な取組となることが期待できる。	◎	本事業により、区内の全小中学校が自主学習ノートに取り組む契機となった。また、オリジナルの「頑張ったねシール」「表彰状シール」を作成することで、児童・生徒の学習意欲を高めるとともに、シールのキャラクターにハニワ課長・ハニワちゃんを採用することで、本市の百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けた取組と連携することができた。				
今後の方向性(課題、改善提案等)							
拡充 継続 見直し 廃止	家庭での学習習慣の形成は、短期間で定着することは困難であるため、一定期間、継続して取り組む必要がある。また、今後は、自立的な家庭学習の定着に向け、学校と連携しながら保護者や地域に働きかけていく必要がある。平成30年に実施した「美原区子どもの生活習慣等実態調査」において、小学4～6年生の8割以上、中学生の6割弱が自主学習ノートを使った家庭学習に取り組んでいると回答していることから、美原区教育・健全育成会議からは、引き続き、自主学習ノートの配布支援を継続するよう提言されている。						